

中学校 技術・家庭（家庭分野） 第2学年 学習指導案

日 時 令和5年7月12日（水）
5校時 13:40～14:30

1. 題材名 『私たちの消費生活』
(教育図書 New技術・家庭 家庭分野 C編 消費生活・環境 1章)

2. 題材の指導目標

- (1) 消費者としての自覚をもち、意思決定のプロセスにそって商品購入をすることができる。
- (2) 契約とは何か、契約によって発生する権利と義務を理解することができる。
- (3) いろいろな販売方法や支払い方法の特徴について理解することができる。
- (4) 中学生に身近な消費者トラブルの特徴や、消費者を守る法律や制度を理解する。

3. 題材の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| ①購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性を理解することができる。 | ①物資やサービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫している。 | ①自分や家族の消費生活の中から問題を見出して課題を設定し解決に向けてより良い生活を考え計画を立てて実践しようとしている。 |
| ②売買契約の仕組みを理解し、具体的な事例について情報の収集・整理が適切にできる。 | ②身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫している。 | |
| ③消費者の基本的な権利と責任を理解し、身近な消費行動が環境や社会に及ぼす影響について考えることができる。 | | |

4. 題材の指導観

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領【技術・家庭編】(平成29年3月告示)の家庭分野の内容「C消費生活・環境」にあたる。ここでは金銭の管理と購入について、課題をもって計画的な金銭管理の必要性について理解し、購入方法や支払い方法の特徴、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応及び物資・サービスの選択に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について工夫することができるようにすることをねらいとしている。

題材の設定に当たっては「B衣食住の生活」の(3)「日常食の調理と地域の食文化」における食品の選択や、(4)「衣服の選択と手入れ」における衣服の選択の学習などとの関連を図る。

(2) 生徒観

本学年の生徒はこれまで第1学年で食生活と住生活について学び、第2学年の1学期に衣生活について学んできた。それぞれの場面で商品を購入する際に事前によく検討することの必要性に重点をおき、家庭学習として身近な食品表示や衣服表示を撮影し、読み取った情報をまとめる活動に取り組み、発表を通して協働的に学び合う活動を行ってきた。また、衣生活の衣服計画における入手や処分の場面では3Rを効果的に実践していく方法を考え自身の日常として取り組むことでSDGsへの興味関心を高め環境へ配慮した生活を送ることへの意識が高まっている。一方で、自身のスマートフォンを所持している生徒が多く、日頃からSNS等のアプリケーションを通して、様々な商品に関する多くの情報に触れることが多いものの、その本質を理解できていない場合が多い。商品の購入も現金だけではなく電子マネーを使用したり、通信販売を利用したりすることが身近でありつつ、正しい知識を身に付けているとは言い難い。近年、変化しつつある中学生の消費行動の実態に即しながら学習を進めていく。

また、本クラスは刺激に弱い特別な支援を必要とする生徒が多く在籍しているため、個別の配慮は必要であるものの授業に向かう姿勢は落ち着いており、真面目に取り組むことができる。困り感を伝えられなかったり書字に課題があったりするため、机間巡視を多く行うとともに、板書の量を調整し、課題に対し考え協働的な学習をする時間を多く設定している。日常生活を想起させる言葉掛けや発問を取り入れ、見通しをもって体験的に学ぶことで、確実な知識の定着を図りたい。学習した内容はハンドノートやeライブラリを活用させ自身の理解度の把握と復習を促す。本題材は生活指導上の問題として非常に生徒に密に関係しているため、正しい知識と消費者としての自覚や責任を確実に身に付けさせていく。

(3) 教材観

消費生活に関わる中学生を取り巻く状況は、販売方法の多様化やインターネット、スマートフォンの普及などにより様々な問題が発生している。中高生や高校卒業後間もない若者をターゲットにした悪徳商法、SNSの利用に伴うトラブルなどは増加し続けており、生徒にとって自己の消費生活を客観的に捉え、判断することが難しい状況である。また、多くの生徒は親からもらうお小遣いの範囲内で消費活動を行っているため、消費者としての自覚が乏しいともいえる。そこで、本題材では、消費生活の現状及び消費者の権利と責任を、自分の意識や行動を振り返らせながら学習していくことにより、生徒に賢い消費者として主体的に考え行動できる力を身に付けさせる。

生徒の意欲・関心を高めるため、生活に密接した身近な具体例を取り上げ、授業を進めていく。本題材では、契約・消費者信用・問題の発生しやすい販売方法について、生徒の関心の高いスマートフォンやインターネット、通信販売を取り上げ、理解を深めさせるとともに、日常生活に活かせるよう支援を行う。また、本校の研究主題等を受けて一人一台端末を活用し、楽しみながら主体的に学習する習慣の定着に向け、学習活動支援ソフトウェア「skymenu」の「発表ノート」機能や、協働学習支援ソフト「コラボノート」など様々なデジタルコンテンツを取り入れていく。

5. 題材の指導計画と評価計画（全6時間）

| 時数 | 目標 | 学習内容・学習活動 | 評価規準 (評価方法) |
|---------|--|--|---|
| 1 本時 | 消費者としての自覚をもち、適切に商品を購入するための手順を考えることができる | ・日頃の消費行動を振り返り、消費者としての自覚をもつ ・意思決定のプロセスにそった商品購入の手順を考え、他者の価値観も共有する | ア① ワークシート 発表ノート、コラボノート 定期考査 |
| 2 | 消費者の基本的な権利と責任を理解することができる | ・買い物の法律的な意味を理解する ・消費行動と消費者の基本的な権利と責任を対応させて考える | ア③ ワークシート 定期考査 |
| 3 | 商品の選択と購入、情報やサービスの活用について考えることができる | ・いろいろな販売方法や支払い方法の特徴を理解する ・品質表示やマークなどから情報を読み取る ・収集、整理した情報を活用して物資やサービスの選択、購入および活用について考える | ア②、イ① ワークシート 発表ノート、コラボノート 定期考査 |
| 4 | 消費者トラブルを解決する方法を考えることができる | ・消費者トラブルを防ぐための消費者を支えるしくみを理解する | イ②、ウ① ワークシート レポート 発表ノート、コラボノート |

6. 指導にあたって

◆本校の研究主題

「情報活用能力の育成の視点を取り入れた学習指導」

◆技術・家庭科 教科研究主題

「生徒の関心や意欲を引き出すための効果的なICT機器の活用」

◆重点努力事項

「ICT機器を活用しながら主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む」

◆実践事項

- ① 10分間の生徒が中心となる活動の継続
- ② 本時の目標の提示および振り返り活動の工夫



◆本時における情報活用能力育成指導の重点ポイント

- (○) ㉠ 課題の設定 [見 通 し] ・効果的な計画を立案する能力 (知技)
- () ㉡ 情報の収集 [収 集] ・効果的に収集、検証する能力 (知技)
- () ㉢ 情報の整理 [整 理] ・表やグラフ等統計的に整理する能力 (知技)
- () ㉣ 情報の分析 [分 析] ・傾向や変化を適切に補える能力 (知技)
- () ・事実や根拠に基づき客観的に分析判断する能力 (思判表)
- () ・資料を多面的に考察し、自分の考えを見出す能力 (思判表)
- (○) ㉤ 情報の発信 [表現・発信] ・相手や目的に応じて、適切に表現する能力 (知技)
- (○) ・効果的に情報の発信、交信する能力 (知技)
- (◎) ㉦ 情報の共有 [協 働] ・他者と考えを共有し、再構築する能力 (知技)
- () ㉧ 考えの調整 [改 善] ・多角的に検討しようとする態度 (主)
- () ・情報活用を振り返り評価改善しようとする態度 (主)

≪東久留米スタンダード（学習指導編）より≫

授業づくりのポイントとして、相互に関連する授業力の6要素、「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」、「統率力」、「指導技術（授業展開）」、「教材解釈、教材開発」、「指導と評価の計画」の作成・改善から捉える。

①導入においては、児童・生徒の「問い」や「思い・願い」を引き出し、気付きや発言をつないで学習課題を設定する。

- ・教材との出会い（具体物、既習事項、演示、対話等）によって「問い」や「思い・願い」を引き出す。
- ・学習課題を把握させる場面では、「何を学習するか」「何ができればよいか」を捉えさせる。

②展開においては、追究・解決に向けて手掛かりを見付けさせ、思いや考えを個でもたせた後、ペアやグループ、学級全体の話し合い活動により広げたり、深めさせたりする。

- ・机間指導を行い、学びの様子を見取り、支援する。

③終末として、児童・生徒一人一人に振り返りさせ、新たな学びにつなげる。

- ・何を学習したかを明確にさせ、新たな学びに目を向けさせる。

7. 本時の指導

(1) 目標

- ・消費者としての自覚をもち、適切に商品を購入するための手順を考えることができる

(2) 評価基準

- ・自身の消費行動を振り返りながら消費者であるという自覚をもち、消費生活への関心を高める(主)
- ・計画的な金銭管理の必要性を理解し意思決定のプロセスによって商品購入を考えることができる(知技)

(3) 展開

| 時間 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 教師の支援・留意点 | 評価 |
|-----------|--|--|---|---|
| 導入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 ・挨拶 ・本時の確認 | ※タブレット端末はログイン済みの状態で持参 <ul style="list-style-type: none"> ・始業前に普段の消費行動に関する Forms アンケートに回答する。 ・始業の挨拶をする。 ・衣食住を充実させるためにお金が必要であると気付く。 ・新しい題材として「消費生活」について学ぶことを知る。 ・タブレット端末でアンケート結果を確認し、他者の回答を共有する。 ・最近の消費生活の特徴を知る ・本時の目標を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物等がある生徒は始業前に報告させる。 ・消費行動に関する Forms アンケートを Teams に投稿し回答させる。 ・きちんと挨拶ができているか確認 ・これまで衣食住を学んできたことを振り返りながら、新しい題材として「消費生活」について学ぶことを提示する。 ・アンケート結果を各端末に投影させながら他者の意見を共有させ、最近の消費生活の特徴の変化を示す ・本時の目標を掲示する | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける態度が整っている【主】 ・アンケートに回答する【知技】 ・普段の消費行動を振り返る【主】 |
| 展開 30分 | 消費者としての自覚をもち、適切に商品を購入するための手順を考えることができる | | | |
| | ① 普段の買い物を振り返る (15分) 「物資」 「サービス」 「必需的」 「選択的」 「計画的なお金の管理」 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに目標を記入する ・発表ノートを開き活動する ・商品を物資とサービスに分ける。 ・欲しいものを必需的还是選択的か優先順位をつける。 ・普段の買い物の様子を振り返り、消費者としての自覚を持つ大切さを考える。 ・ワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し目標を記入させる ・発表ノートの教材を配布する ① ページ内の付箋に欲しいものを入力させる ② 付箋を物資とサービスに分けて配置させる (班で画面を見せ合い共有) ③ 付箋の色を、必需的なものを赤、選択的なものを青に変えさせる ④ 優先順位を考えさせる (班で画面を見せ合い共有) ・ワークシートにキーワードを記入させる | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する【技主】 ・商品を物資とサービスに分ける【知技】 ・欲しいものを必需的还是選択的に分け優先順位を考える【知技】 |
| | ② 意思決定のプロセスを考える (15分) | <ul style="list-style-type: none"> ・衣服計画のサイクルにおける入手の場面で大切だったことを思い出す。 ・買い物をする際の意思決定のプロセスについて知る。 ・コラボノートを開いて活動する。 ・意思決定のプロセスの比較検討において、他者が何を重視しているか共有する。 ・ワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣服計画の学習を想起させ、物を入手する際に大切なことは何かを考えさせる ⇒ 本当に必要かどうか、目的に合っているか、環境に配慮しているか ・コラボノートでの意思決定プロセス課題に取り組みさせる。 ① コラボノートの課題に沿って意見を入力し自分の番号に貼らせる。 ② 他者の意見を共有させる。 ・ワークシートにキーワードを記入させる | <ul style="list-style-type: none"> ・購入の目的や必要性を考える【主】 ・意思決定のプロセスによって購入する流れを理解する【知技】 ・実際の買い物を想定し、意思決定をする【知技】 |

| | | | | |
|-------------|--|--|---|---|
| 振り返り 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容確認 ・課題の提示 ・次時の学習予定確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・Formsの振り返りアンケートに回答する。 ・他者の回答を共有する。 ・ワークシートの課題を家庭学習で取り組むことを知る。 ・次時は「契約と約束の違いは何か」を学ぶことを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Formsの振り返りアンケートに回答させる ・結果を投影して提示し学習内容の確認と他者の意見を共有させる。 ・ワークシートの課題について説明する。 ・次時は「契約と約束の違いは何か」について学ぶことを知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りアンケートに回答する【主技】 |
|-------------|--|--|---|---|

(4) 板書計画 ※ ワークシートの空いているところへキーワードを記入させます

| | | |
|--------------|--|--|
| 本時の目標 | 「消費者としての自覚をもち、適切に商品を購入するための手順を考えることができる」 | |
| | <p>消費生活… (<u>商品</u>) を購入して消費している生活</p> <p style="padding-left: 20px;">→形のあるもの… (<u>物資</u>)</p> <p style="padding-left: 20px;">形のないもの… (<u>サービス</u>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物資やサービスは (<u>必需的</u>) なものと (<u>選択的</u>) なものがある ・資源もお金も限られているため (<u>優先順位</u>) を考え判断していく。 →計画的な (<u>金銭管理</u>) が大切。 | <p style="text-align: center;">本時の流れ</p> <p>7月12日(水)</p> <p>教 p.240～</p> <p>ハ p.134～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Forms アンケ ② ワークシート ③ 発表ノート ④ ワークシート ⑤ 振り返り |

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定プロセス…課題の設定から評価、見直しまでの流れ <ol style="list-style-type: none"> ①買い物の (<u>目的</u>) (<u>必要性</u>) (<u>優先順位</u>) を考える ②解決方法を考える ③情報の (<u>収集</u>) (<u>比較</u>) (<u>検討</u>) ⇒ (<u>品質、機能、価格、環境や社会への配慮・保証</u>) ④決定、活用 ⑤評価と見直し |
|--|

(5) 準備物

- ・タブレット端末、TVモニター、教科書、ハンドノート、ワークシート
- ・発表ノートの配布教材、コラボノートの教材ページ
- ・振り返り用 Forms アンケート、ワークシート記入例の Teams アップロード

8. 授業者の課題

- ・ICT機器やソフトの活用は生徒の学習への意欲や興味を引き出すために適切であったか。
- ・生徒が主体的、対話的に学ぶための授業を展開することができていたか。
- ・情報活用能力育成指導の重点ポイントを取り入れることができていたか。
- ・時間配分が適切であったか。